



vscodeでgitにupする手順をテキストにしてテキストファイルにして

VSCodeでGitにファイルをアップ（push）する基本的な手順をまとめたテキストを以下に作成しました。この内容をテキストファイルに保存することで、そのまま作業の手順書として使えます。

VSCodeでGitにアップロードする手順

1. VSCodeでプロジェクトフォルダを開く

- 「ファイル」→「フォルダーを開く」で、Git管理したいフォルダを選択

2. Gitリポジトリの初期化（初めての場合のみ）

- 左サイドバーにある枝分かれのような「ソース管理」アイコンをクリック
- 「リポジトリの初期化（Initialize Repository）」をクリックしてGitリポジトリを作成

3. 変更ファイルをステージング（追加）する

- 左サイドバーの「ソース管理」画面に変更したファイル一覧が表示される
- ファイル横の「+」ボタンを押してステージに追加（すべて追加するなら「Changes」横の「+」をクリック）

4. コミットメッセージを入力し、コミットする

- 「メッセージ入力欄」に変更内容の説明を入力（例：初回コミット、バグ修正など）
- メッセージ入力後、チェックマークの「✓」ボタンをクリックしてコミット

5. リモートリポジトリを設定する（初回のみ）

- 既にリモートが設定されていない場合はターミナルで以下を実行

```
git remote add origin git@github.com:ユーザー名/リポジトリ名.git
```

- 既に設定済みなら不要

6. 変更をリモートにプッシュする

- ソース管理画面の上部にある「...」（メニュー）をクリックし、「プッシュ（Push）」を選択
- または左下の青い上矢印アイコンをクリックしてプッシュ
- 初回プッシュ時は「-u origin ブランチ名」（例：main）を指定してpush

```
git push -u origin main
```

7. プッシュ完了の確認

- GitHubのリポジトリページでコミットが反映されていることを確認

補足

- VSCodeのターミナルでもGitコマンドを使えます。
- 複数ファイルの管理やブランチ操作もソース管理アイコンやコマンドパレット (Cmd+Shift+P) から可能です。
- リモートリポジトリがGitHub以外の場合でも基本操作はほぼ同じです。

このテキストをそのままテキストファイル (例: `vscode_git_push.txt`) として保存すれば、いつでも手順確認ができます。

必要に応じて、実際のコマンド例やトラブルシューティングの説明テキストも作成可能ですのでお知らせください。

